

研究主題

## 校外教育 研究紀要

# 栽培活動に取り組む豊かな勤労体験活動

朝霞市立朝霞第二中学校



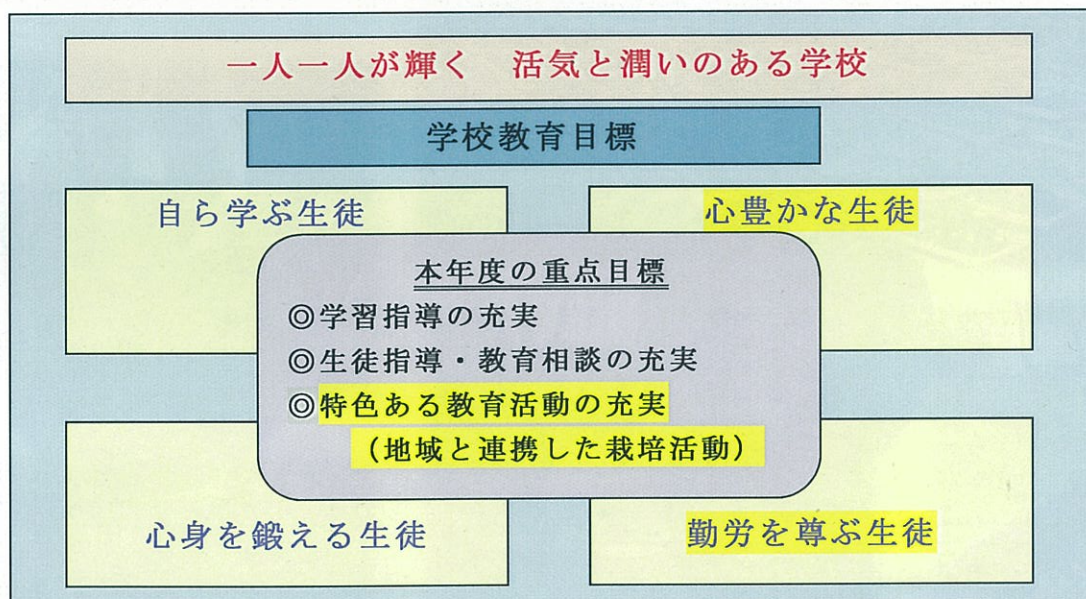
## 1 はじめに

本校は埼玉県南部にあり、東京都に隣接した朝霞市の中心部に校区をもつ。東武東上線の朝霞台駅、武蔵野線の北朝霞駅が利用できるが、学校の裏には黒目川が流れ、周りは畑に囲まれた豊かな自然が残る学校である。敷地内には多くの樹木や花壇があり、700人規模の生徒が十分に栽培活動を行える環境が整っている。また、生徒も素直で、栽培の作業にも良く取り組んでいる。入学してくる生徒は、花を育てたり、土の中の生き物に触れる機会が少ない生徒が多いが、種をまいたり、苗を植えたりする栽培活動にはとても興味を持ち、進んで作業を行う。学年が上がるにつれて栽培の知識も増え、作業もスムーズにできるようになっている。

## 2 研究の概要

本校では「一人一人が輝く 活気と潤いのある学校」の具現化を目指し、4つの教育目標を掲げて教育活動に取り組んでいる。教育目標の中にある「心豊かな生徒、勤労を尊ぶ生徒」の育成のため、栽培活動を特色ある教育活動の一つに位置づけ、約30年前から栽培活動を中心にした勤労生産活動を行ってきた。一年を通して栽培活動を継続的に行うことで、生命の連続性に気づき、生物を大切にすることを育成すること、また全校を挙げて豊かな環境づくりに取り組むことで勤労を尊ぶ生徒の育成を目指し、本研究に取り組んだ。

### <栽培活動の位置づけ>



## 3 実践活動

### (1) マリーゴールド・パンジー・ノースポールの種まき

生命の連続性に気付かせ、生命を大切にすることを育成するために、種から育てる活動を目指し、毎年マリーゴールドとパンジー・ノースポールの種まきを各学年「総合的な学習の時間」に行っている。発芽率を上げるため、ポットに種まきを行い、発芽したものを花壇に植え直す方法をとっている。生徒たちも3年間のうちに作業に慣れ、学年が上がるごとに、蒔いた種が発芽するようになっていく。天候等で左右される欠点はあるが、生徒自身が蒔いた種が発芽することで、生命のたくましさなどを感じる機会を持つことができる。

### (2) 親子栽培

8月4日に行われた親子栽培では、生徒、保護者合わせ240人以上が参加し、学級花壇や中庭の花壇にマリーゴールドを植えたり、花壇の除草をするなど、保護者の方と

協力し、栽培活動を行うことができた。この活動を通して保護者に学校の活動を知ってもらおうとともに、栽培活動への理解と協力を得る機会を持たせた。



親子で学級花壇を手入れする



マリーゴールドを植える



栽培委員会の花壇

### (3) 落ち葉拾い

12月に行われる落ち葉拾いを学年ごとに行っている。近くの城山公園へ落ち葉を拾いに行き、拾った落ち葉は、腐葉土置き場に2年間置き腐葉土にする。できた腐葉土は、花壇に混ぜ込み、豊かな土壌とする。

### (4) 菊栽培

1年から3年までの有志を募って菊栽培を行っている。地域との連携を進め外部指導者の方をお招きし、26年度は15人ほどの有志で活動した。毎週の活動はもちろん、菊の手入れが忙しい時期には週に何度も集まり、手入れをしている。育った菊は秋に行われる朝霞市文化展に出展し、多くの賞を受賞している。



外部指導者の方と菊を育てる



出展した菊は玄関前に展示



落ち葉拾い

### (5) 8・9組の栽培活動

特別支援学級では、作業学習で夏野菜（キュウリ・トマト・ピーマン・・・等）の栽培や観察を行っている。さらに、緑のカーテン（ゴーヤ）作りにも取り組んでいる。畑作りから苗植え、水やりや管理と、大変な作業ですが、収穫時には生徒全員の笑顔を見ることができる貴重な活動です。



夏野菜の栽培



特別支援学級の畑



緑のカーテン

#### (6) クラスでの活動

20学級ある本校であるが、学級毎に学級花壇があり、清掃の時間に栽培活動の時間をとっている。クラスの生活班1班が清掃の時間に、各クラスの学級花壇の手入れを行う。また、夏休み中にも花壇の手入れを各クラス当番制で毎日行い、日誌をつけている。一年を通して毎日クラス単位で栽培活動ができるようになっている。

#### 4 地域での活動



彩夏祭での鳴子踊り



黒目川清掃活動



黒目川「川の演奏会」

#### 5 成果と課題

##### (1) 成果として

- ・9月に生徒たちの栽培活動に対する意識調査を行った。その結果は、下の図のように、栽培活動に携わる機会が増えたと感じる生徒が全体の約74%、また栽培活動が好きになったと答えた生徒は約43%となった。

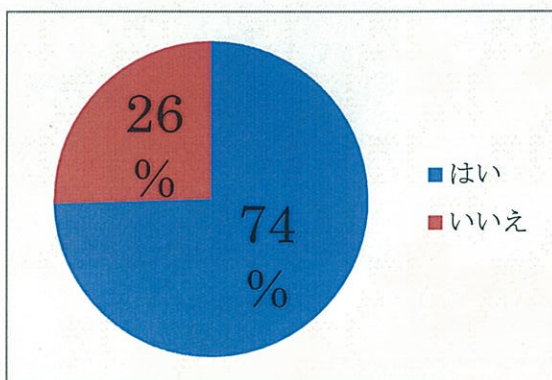


図 1 入学前に比べ、花を植える機会が増えましたか。

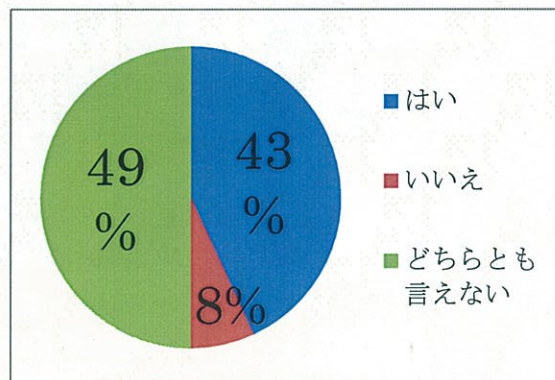


図 2 入学前に比べ、植物や栽培活動が好きになりましたか。

- ・年々花の咲く量が増えてきており、生徒の栽培活動への意識の向上がうかがえる。
- ・親子栽培や落ち葉拾いなど保護者や地域と関わった栽培活動ができ、本校の栽培活動を支援していただく関係づくりの一つとなってきている。
- ・地域との連携が学校の中に定着してきており、生徒、保護者、地域の方々の生き生きとした姿が多く見られた。

##### (2) 課題として

学校での生徒の様子を見ていると、栽培活動への意識の高まりが、生徒の「心の豊かさ」や「勤労を尊ぶ心」の育成に繋がってきているように感じる。今後さらに充実させるためには、「総合的な学習の時間」だけでなく、「道徳」や「理科」、「技術・家庭」等の教科の年間指導計画への位置づけや、活動時間の確保について検討していくことが課題である。